

# '77 My Cycling Report

3年 宝谷一夫

朝7時起床、昨日は天気雨に降られて 出鼻をくじかれ気味だったが、今日は五月晴れ、絶好のサイクリング日和だ。朝食を腹いっぱい詰め込んだ僕等二人は、伊那の旅館を出発した。連休の最中とはいえ今日は土曜日だ。通勤、通学の人で混み合う駅前通りをさっと通り抜け、橋を渡る。ここからは檜木街道だ。しばらく川沿いに走ると町並みを過ぎた頃から道の両側は田んぼになった。ほんの数十分走っただけで田舎道の雰囲気味わえるなんて東京では考えられないことだ。在前方彼方にまだ頂上に雪を抱いた高い山が見えた。

木曾山脈の駒ヶ岳である。道を振り返ると南アルプスの雄大な山並みがかすんで見える。

思わず口笛でも吹きた

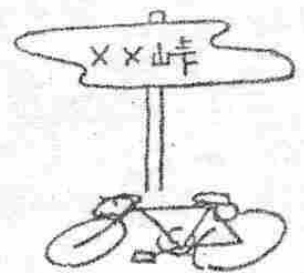
くなるような気持ちだ。実に beautiful ちよっとくどく書き過ぎの概です失礼。道はまだ平らなので、ペダルかこんこんこける。一時間程走ると、近くの山が急に両側に迫って来た。木曾の山並みはもう手前の山に隠れてしまった。やがて舗装もなくなり地道になった。ここでも国道なのかと腹たたくもなるが、地道



土道なりにまた良いものである。カーブを曲がると、先へ張りき  
って走っていた鈴木が笑ってこちらを見ている。何と土砂くず  
れで道が半分以上のまがっているではないか。これから先はもう  
自動車は入ってこないんだと思うと何となく誇らしい気持ちにな  
る。ここでしばし休憩した後僕等はウツカリ記念写真をとって  
出発した。

道はしだいに勾配を増しはじめた。こんな所へはじめてたまる  
かと力んでペダルを踏み続けるとついに登山口入口にいった。そ  
うですこれから先は地図で言えば点線の道つまり登山道です。時  
刻は10時を少し過ぎた頃だった。まもなく愛車をかついで登りは  
じめた。もちろん押せる所は押した。走っている時は全然使わな  
い筋肉を使うのでもう腰らはむがっさりそうだった。まったく自転車は  
押すには不都合というよりジャマである。いっそ捨てるか。とに  
かく歩く時間の倍はかかるだろう。ハンドルを押す手が汗ばむ。  
この稚矢衛街道は現在は信濃路自然歩道に指定されているが、  
その昔は「木曾へ木曾へとつけぬ米は伊那や高遠のあまり米」  
と唄いながら馬子達が通った木曾と伊那を結ぶ重要な道だった。  
まあガイドはこの辺にしておきましてと、押しても押してもな  
かなか進まないが途中に小川が流れていたり 堰の横をバランス  
よく愛車をかついで通ったりしなから なかなかどうして楽しい  
のである。「カンパッチあと30分」とか「もうすぐ昼ごはん」など  
と遠足の道案内を示すカンパンがあらち目につく。小学生の足

てあと30分かと思えるがそれがまたどうして時間が食うのです。  
トレーニング不足の正体リジャ〜。あともう少しあの角を曲が  
れば峠だなどと自分に言いまかせせるものの、その度失望が重な  
る。そろそろ腹も減りはじめた。すると前方にくぼみが見えた。  
やった峠だともうすぐだ。最後はやや余裕がなくなったがもう  
押しの一歩。ついに峠に到着。この一瞬のために苦勞して登っ  
てきたんだ。この爽快な気分はサイクリングの醍醐味と言えよ  
う。今回のフリーランの目的の一つである  
山道の挑戦も実行してみるとなるかいい  
ものである。僕にとってはとてもいい体験  
になった。



—— 権兵衛峠 52 4月30日 ——

朝7時、もっと寝ていたい気持ちでいっぱいだ。自宅なら即、  
この誘惑に負けて寝てしまおうだろう。がバツと山とんを蹴って飛  
び起きた。まだ体の節々がれたむ。10月の飛騨の朝は寒い寒い。  
そして天気もあまり好くない。昨日一晩中に泊まった高専のサイ  
クリストと二人だけで食事を済ませ、出発の準備にとりかかった。  
彼の自転車は5段変速のスポーツ車で、金がないからしばらくは  
この自転車で走るしかないよと言ってた。もちろん輪行車ではな  
い。そのガッツさに僕は脱帽してしまう。合掌造りの五箇山YH  
の前で記念写真を取り出発した。彼とは行き先が逆なので手を振

って別れた。R156を僕が一人寂しく走りだした。今日は月曜日なのでサイクリストはおるか観光客にもほとんど会わない。ソロツーリングは2年ぶりである。僕が1年生の時に京都神戸を走った時は工具などというものは持たず、メカニクスの知識も持っていなかった。与るるとよくまあ無事に走り通せたと思う。その点今回は用意万全、フロントバックはパンパンだ。ついでにパンも買ひ込み。おかげでフロントバックはパンコキ前。天候は良くなく、曇った空はあいさつ代わりに霧雨までよこしてきた。工具は万全であったが出発前の点検に時間をかけているが、下為チェーンとデイルターの調子が悪い。RDのアルビは最近御不快らしくトップに落ちる素振りも見せない。それに釣れてFDのフォレストージも何か今一つ本調子でない。デイルターが調子悪いと上り坂で本当に困ってしまう。床川に上ったこのR156は到着所はダム

が作ってあってその度毎に急な上り坂が現われる。そしてダムだけではなくトンネル工事、新橋工事、新しいダムの建築などで各所々が地道になっている。その為チェーンが上下に踊り、とにかく走りづらい。雨は降ったりやんだり、で実に辛い。2kmも続く長いトンネルやまた赤い道路橋、要する姿

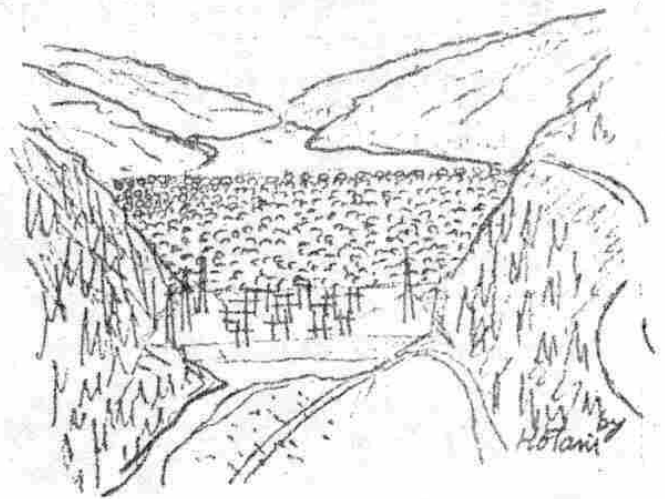


合掌造り

のダムがあつたりしておもしろい街道だが やっぱり天好がよくないと今一つ物足りない。

午前10時頃 白川郷に着いた。ここは白山スーパー林道の入口にちつている。スーパー林道を少し登って白川郷合掌村に行った。この合掌村は見学科150円程で 家の中にあがってお茶を飲んでくれた。家の中のりりにはさすがで黒光りしてりる自在カキがあつてその古さを見せつける。合掌造りは2階3階4階とあつて日本の建築の中では最高の傑作と言われている。皆さん飛騨へ行つたら是非見に行つて下さい。ここで一時間程休憩した後、再び小雨のパラツク国道へ出た。白川街道は両側を山に囲まれてその間を流れる庄川の狭い岸にハバリツク様にして走つてりる。白山登山口の平瀬についたのは11時半頃だつたに違ふ。ここで民俗館を見初したら 中京11PMの取材車に偶然出合つた。どうも縁側にきこひるせの人が居ると思つたら マスコット girl でしたか。アーン。

雨が一時やんだのでこの間にキヨリをかせこうと思つたが ちょうど昼時なので昼食を取つた。腹半分目程だつたが満足して外へ出ると すぐ雨がバラ



—ロックフィルダム— 御田後

パラ、今日は一日中雨らしい。もう半分やけくそでペダルを踏み続ける。しばらく行くと異様なピラミッドが現われた。あれがかの有名な御母衣ダムか。山と山の間を大きな石が積み上げられて川をせき止めている。いったいどうやって造ったのかね名取君!? ダムを横目で見ながら上り坂を登る。ダムの上まで道は続いている。ミビヤ〜 白川街道は高山側から金沢へ抜ける方が絶対楽である。ダムの上へ出ると満々と水を貯めた御母衣湖が眼前に広がる。これから先は湖の岸を走るため、比較的スピードが出るようになった。しかしチェーンの具合がおかしくて時々カチッカチッと異音を発する。しかたなく降りてチェーンを見ると水溜が一ぱい付着していた。本当にやになっちゃうなあ〜も〜。油をさして再び走り出し、午後4時には敦戸(R156とR158の分岐点)に着いた。ここで本日最後の見学場、莊川の里を見て今夜泊まる所を探した。丁度近くには民宿があったので直接交渉して泊めてもらった。今夜は腹いっぱい飯が食えるぞ!と思ったら安心感がドゥ〜と押し寄せてきて、急に疲れが出た。今日は天候に恵まれず、クウをフカフカこぼしながら走っていたが、振り返ってみるとなかなか良かった。今度は春にでももう一度訪ねてみようと思いをながらフカフカフカの中に入り込み、テレビを見ながら寝た。

